

## 天神島ビジターセンター配置適正化実施計画（素案）について

### 1 計画（素案）の対象施設について【別冊 1 素案 P. 1～P. 4】

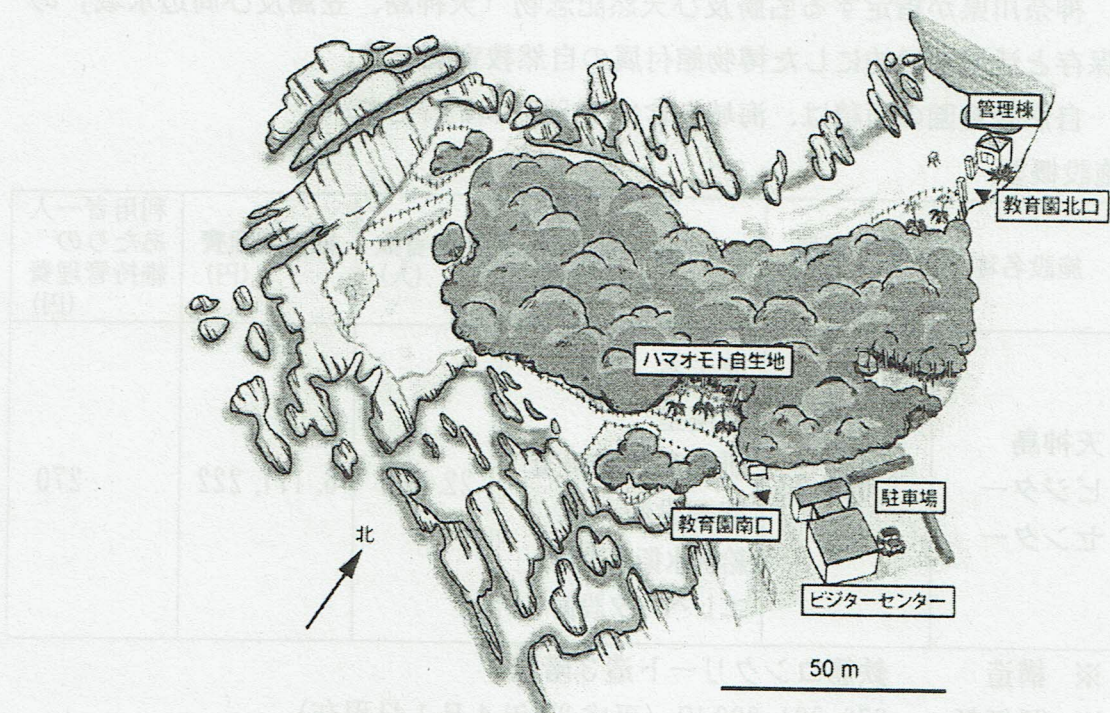
#### (1) 対象施設

本計画の対象となる施設は以下のとおりです。

施設名称	行政地区	所在地	建築年度	経過年数
天神島ビジターセンター	西	佐島 3-7-2	昭和 41 年度 (1966 年度)	50 年

#### (2) 対象施設の課題

- ア 天神島ビジターセンターは、天神島臨海自然教育園に隣接し、博物館のサテライト機能やトイレ等の便益機能を有する施設として、年間 2 万人程度に利用されています（平成 26 年度 18,052 人、平成 27 年度 22,865 人）。
- イ そのような利用状況の中で、築 50 年を経過した建物であることから、鉄筋コンクリート造建造物の耐用年数から判断して、築 70 年を超えて維持することは難しいため、改修ならびに建て替え計画が課題となります。



天神島ビジターセンターと天神島臨海自然教育園（天神島部分）

### (3) 天神島ビジターセンターの現状

#### ア 経緯と経過について

天神島ビジターセンターは、平成 11 年に神奈川県から無償譲渡された青少年宿泊研修施設を改装して開館しました。

その後、現在に至るまで、天神島臨海自然教育園とその周辺の自然や民俗について学習する施設として利用されています。

#### イ 土地について

天神島ビジターセンターが所在する土地 (1474.61 m<sup>2</sup>) は、神奈川県から無償で貸与されています。この土地の西端には天神島臨海自然教育園の南口が所在し、津波等災害時の緊急避難口を兼ねています。

また、天神島臨海自然教育園の駐車場 (622.66 m<sup>2</sup>、15 台) にも隣接していることから、天神島ビジターセンター及び天神島臨海自然教育園の活用の上でとても有益かつ不可欠な土地です。

#### ウ 利用料金等

天神島ビジターセンターの入館料は無料です。天神島臨海自然教育園の入園料も同様に無料です。

なお、天神島ビジターセンター内の学習室・講座室等については、一般の貸し出しを行っていません。

#### エ 天神島臨海自然教育園について

神奈川県が指定する名勝及び天然記念物「天神島、笠島及び周辺水域」の保存と活用を目的にした博物館付属の自然教育園です。

自然教育園の面積は、海域を含めて 539,947 m<sup>2</sup>です。

#### オ 施設概要

施設名称	延床面積 (m <sup>2</sup> )	設 備	利用者数 (人)	維持管理費 (円)	利用者一人あたりの維持管理費 (円)
天神島 ビジター センター	1,004.05	展示室 講座室 研究及び資料室 空調設備 給排水衛生設備 エレベータ設備	22,865	6,171,222	270

※ 構造 鉄筋コンクリート造 3 階建

※ 評価額 279,381,000 円 (平成 27 年 4 月 1 日現在)

## 2 アンケート調査の概要【別冊1 素案 P. 5～P. 7】

配置適正化実施計画（素案）を策定するにあたり、天神島ビジターセンターの利用目的等を把握するために、次のとおりアンケートを実施しました。

### (1) 調査対象者及び調査方法

- ア 天神島ビジターセンター、天神島臨海自然教育園、横須賀市自然・人文博物館本館の来館・来園者を対象にしました。
- イ 天神島ビジターセンターに1か所、天神島臨海自然教育園の北口に1か所、横須賀市自然・人文博物館本館3か所にアンケート用紙を配置し、それぞれに回収箱を設置して回収しました。

### (2) 調査期間

平成28年（2016年）6月1日（水）から6月30日（木）までです。

### (3) 回収状況

3施設での回収状況は次のとおりです。

施設名	回収件数	期間中の来館（園）者数
天神島ビジターセンター	149件	2,488人
天神島臨海自然教育園北口	30件	2,280人
横須賀市自然・人文博物館	55件	4,511人
合計	234件	9,279人

### (4) 調査結果の概要

- ア 天神島ビジターセンターと天神島臨海自然教育園は、利用者に限れば約4割の方が複数回利用しています。このことから、“コ”の利用者の住まいと合わせ、市外在住者を中心にリピート効果を期待できる施設とみなすことができます。
- イ 一方で、横須賀市自然・人文博物館本館のアンケート調査では、約4割の方が天神島ビジターセンターを利用していないことから、天神島ビジターセンターの市民の利用度が低い結果を反映しています。
- ウ 天神島ビジターセンターの利用者は、100%天神島臨海自然教育園も利用していますが、一方で天神島臨海自然教育園のみの利用者がいます。
- エ 天神島ビジターセンターの利用目的では、利用したことがある方の49.5%にあたる103人が「展示の見学」と回答しています。施設の利用としては、「トイレ・水道の利用」や「駐車場の利用」が多く、今後もそれらの目的で利用したい意見が多く寄せられました。

- オ 「団体での利用」「イベントの参加」を目的に利用した方も多く、講座室等で天神島ビジターセンター内の施設を利用したことを示しています。
- カ その他、「情報収集」、「休憩」、「研究活動」が多く、ガイダンスや休憩場所、学術研究の場としての機能も重要であることがわかりました。
- キ 多くの利用者が今後も天神島ビジターセンターを「ぜひ利用したい」または「利用したい」と答えています。
- ク 自由意見では、貴重な場所、素晴らしい自然との触れ合いができる、市民にとって大切な教育施設、イベントの継続希望など、施設の存続に対して好意的な意見が多く寄せられました。その一方で、施設の存在を知らなかったなど、PRやアクセス情報の不足について指摘がありました。
- ケ 利用者の年齢を20歳未満、20～30代、40～50代、60歳以上で区分すると各世代に分散しており、プロフィールや性別についても大きな偏りがない傾向が伺えます。
- コ 利用者の住まいは、市内在住者が3施設全体で19.7%、天神島ビジターセンターでは6.7%、天神島臨海自然教育園では13.3%で、市外の利用者が大半を占めることが明らかになりました。
- サ 家族での利用者が多く、天神島ビジターセンターの調査結果からは、様々な世代の家族構成での来館・来園者が多い。

#### (5) 調査結果の計画への反映状況

- ・ 調査の結果、
  - ① 全体で9割近くの利用者(88.5%)が、天神島ビジターセンターでは9割を超える利用者(90.6%)が「利用したい」「ぜひ利用したい」を選択していること、
  - ② 展示の見学を目的とする利用者が多いこと、
  - ③ 続いて、トイレ・水道の利用や休憩、情報収集、研究活動を目的とする利用者が多いこと、
  - ④ 市外からの利用者が多いこと、特に天神島ビジターセンターのアンケート調査では9割を超えていること、
 などが明らかとなりました。
- ・ 上記のうち“③”については、天神島臨海自然教育園内のトイレが、老朽化により平成25年度に撤去されたことから、同教育園の管理運営上は、来園者用のトイレの設置は不可欠であると判断されます。
- ・ また、園内には日除けがないことから、特に夏季における休憩場所としての利用も見逃せません。
- ・ 今回のアンケート調査からは、利用者の多くが期待する展示教育機能と便益機能の充足を目的として、廃止(100%縮減)から施設の建て替え等、計画の見直しの必要性に反映されたものと評価します。

### 3 施設配置適正化への取り組み【別冊1 素案P8～P9】

#### (1) 平成 64 年度までの目標およびそれに向けた考え方・ロードマップ

- 建築後 70 年目を迎える平成 48 年度（2036 年度）まで、天神島ビジターセンターを維持して活用していくために、必要な改修等を実施します。
- また、天神島ビジターセンターの利用者の特徴として市外在住者が多い点を評価し、市外からの集客力の向上につながる工夫や民間活力の導入などによる収益性の確保を検討します。
- それと共に市内在住者に対しても天神島ビジターセンターならびに天神島臨海自然教育園が持つ価値と魅力を広めていきます。
- 天神島ビジターセンターが建つ土地については、神奈川県との無償貸与契約の継続について調整していきます。
- そして、建築後 70 年目にあたる平成 48 年度には、博物館のサテライト施設としてのビジターセンターの機能を残しつつ、民間活力による利用について検証した結果を踏まえて、施設を建て替えます。
- 施設の規模については、「適正化計画」の目的に基づき、縮減率をできるだけ大きく確保することに努めます。

#### ア 期間別の考え方

施設名称	H29～H36 (中長期)	H37～H46 (長期)	H47～H64 (超長期)
天神島 ビジター センター	大規模改修（建築） ※屋上防水 ※外壁改修	(民間活力の利用)	施設の建て替え

#### イ 事業費及び財源内訳

(単位：千円)

		H29～H36 (中長期)	H37～H46 (長期)	H47～H64 (超長期)	計	
改修	事業費	40,248	0	69,012	109,260	
	財源内訳	国、県支出金	0	0	0	0
		市債	40,200	0	69,000	109,200
		その他	0	0	0	0
		一般財源	48	0	12	60

※超長期の建て替え事業費は、馬堀自然教育園学習棟（平屋建て 149.5 m<sup>2</sup>）を参考とした。

#### (2) 平成 33 年度までの目標および具体的なスケジュール・実行計画

- 神奈川県が実施した大規模改修から 20 年が経過する平成 30 年度（中長期）を目安に、屋上防水・外壁改修工事を実施します。
- 来館者の増大を目標とし、民間活力の導入など幅広い利活用を検討します。

